

平成26年度

港湾空港技術講演会



日時 平成26年12月15日 月

11:00 ~ 17:00 [受付 10:40 ~]



入場 無料

定員：300名

■ 講演会概要 ■

本講演は、国土交通省 国土技術政策総合研究所 及び、独立行政法人 港湾空港技術研究所で実施している調査、研究及び技術開発の成果を公表し、その普及に努めることを目的に開催しております。当日は、『インフラストラクチャのマネジメントと強靱化』と題して、横浜国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授 藤野陽三教授の特別講演と、両研究所から最新の研究成果を発表します。ご多忙中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜りますようご案内申し上げます。



必要事項を明記の上、FAX・e-mailにて
下記宛先までお申し込みください。

■ 必要事項 ■

件名に『平成26年度 港湾空港技術講演会 参加申込み』とし、

① 氏名 ② ご所属団体名 ③ 郵便番号・住所 ④ 電話番号

(※FAXでお申込みの方は、FAX 番号もお知らせ下さい。)

以上を明記の上、FAX・e-mailでご連絡ください。(様式自由)

■ 申込締切 ■ 12月5日(金)

なお、参加者多数の場合は、定員になり次第締切とさせていただきます。



土木学会CPDプログラム

認定番号：JSCE14-0713

単位数：4.7単位

会場

建築会館

[東京都港区芝 5-26-20]
JR 田町・地下鉄三田駅から徒歩3分

お申込先・お問合せ先

国土技術政策総合研究所
管理調整部 企画調整課

Tel：046-844-5018

Fax：046-842-9265

港湾空港技術研究所
企画管理部 企画課

Tel：046-844-5070

Fax：046-844-5072

e-mail：kikaku@ipc.pari.go.jp

■ 会場 MAP



プログラム

| | |
|--------|---|
| 10:40～ | 開 場 |
| 11:00～ | 開会挨拶 ◎ 山本 浩 国土技術政策総合研究所 副所長 |
| 11:10～ | 「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の改訂動向 ◎ 宮田 正史 国土技術政策総合研究所 港湾研究部 港湾施設研究室長 |
| 11:50～ | 高波の大規模化によるリスクの増大と対応の方向性 ◎ 鈴木 武 国土技術政策総合研究所 沿岸海岸・防災研究部長 |
| 12:30～ | 休 憩 (1時間) |
| 13:30～ | 大規模水槽実験を通して学んだこと ◎ 有川 太郎 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域 津波研究チーム 首席研究官 |
| 14:10～ | 港湾構造物の維持管理技術に関する港空研の取組み ◎ 山路 徹 港湾空港技術研究所 構造研究領域長 |
| 14:50～ | 栈橋上部工の一時点検作業を目的としたROV型点検装置の研究開発 ◎ 田中 敏成 港湾空港技術研究所 新技術研究開発領域 計測・システム研究チーム 主任研究官 |
| 15:30～ | 休 憩 (20分) |
| 15:50～ | 特別講演 インフラストラクチャのマネジメントと強靱化 ◎ 藤野 陽三 横浜国立大学 先端科学高等研究院 首席特別教授 |
| 16:50～ | 閉会挨拶 ◎ 高橋 重雄 港湾空港技術研究所 理事長 |
| 17:00 | |

講演者紹介 / 講演内容の概要

特別
講演

横浜国立大学
先端科学高等研究院 首席特別教授

ふじの ようぞう
藤野 陽三

『インフラストラクチャのマネジメントと強靱化』



藤野 陽三氏 プロフィール

1972年 東京大学工学部土木工学科卒業
1976年 カナダ ウォールタール大学博士課程修了
1990年 東京大学教授
2013年 東京大学名誉教授
2014年 横浜国立大学 先端科学高等研究員 首席特別教授
内閣プログラムディレクター (併任)

インフラの特徴はその設計、施工、使用環境が構造物毎に異なり、供用期間が数十年に達するため、個別性が高いことが特徴である。我が国のインフラマネジメントは災害対応にも大きな比率を占める。本講演では、このような状況の中でのインフラマネジメントの現状と今後の展開を軸に、2014年度からスタートした総合科学技術会議の戦略イノベーション創造プログラムの一課

宮田 正史 『「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の改訂動向』

防波堤や岸壁など港湾施設の設計に関する基準である「港湾の施設の技術上の基準・同解説」(平成19年)について、平成30年の全面改訂を目標に、改訂に向けた本格的な検討作業を開始したところである。本講演では現時点における主要な技術的事項の改訂方向性についてその概要を述べる。

鈴木 武 『高波の大規模化によるリスクの増大と対応の方向性』

IPCC 第5次報告書は、気候変動によって海面が上昇し、台風が強化する可能性が高いことを指摘した。それを受けて高潮による浸水被害がどのように変化するかを予測するとともに、その結果を踏まえて対応の方向性を考察した。

有川 太郎 『大規模実験を通して学んだこと』

大規模波動地盤総合水路ができて15年になろうとしています。これまでどのような実験を行い、何が明らかになったのかを振り返るとともに大規模実験の役割とは何かについて考察する。また、今後の期待と数値計算の兼ね合いについて述べる。

山路 徹 『港湾構造物の維持管理技術に関する港空研の取組み』

平成25年の港湾法の改正により、港湾施設について定期的な点検診断が義務化されることとなり、今まで以上に効率的な維持管理技術の開発が求められている。本講演では、港湾構造物の維持管理技術に関する港空研の取組みと、今後求められる維持管理技術の方向性について述べる。

田中 敏成 『栈橋上部工の一次点検作業を目的としたROV型点検装置の研究開発』

栈橋上部工底面の一次点検作業を目的として、水中部無人で当該作業を行うためのROV型点検装置と、その遠隔操作支援技術及び点検位置情報の管理手法について研究を行っており、これらの取組みについて述べる。